

2014 年度前期 工学部画像科学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1T005001	計算機システム入門	2 年前期木曜 1 限	眞鍋 佳嗣	T1T 1
T1T006001	プログラムの設計と実現 I	2 年前期木曜 2 限	堀内 靖雄	T1T 2
T1T022001	情報理論 (情報画像)	3 年前期月曜 3 限	須鎗 弘樹	T1T 3
T1T026001	ヒューマンインタフェース	3 年前期火曜 2 限	黒岩 眞吾	T1T 4
T1T027001	コンピュータグラフィックス	3 年前期木曜 4 限	津村 徳道	T1T 5
T1T081001	プログラム演習	2 年前期金曜 3 限	森 康久仁	T1T 6

授業科目名	: 計算機システム入門
担当教員	: 眞鍋 佳嗣
年次・開講時限	: 2 年前期木曜 1 限
授業コード	: T1T005001
授業アンケート	: 回答者数 20 人 / 受講者数 34 人 (回収率 59%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 19 件)

平均点が高く、学生に満足してもらえる授業が行えていると思う。但し、「3. どちらともいえない」と回答した学生が3人居るので、さらに授業内容および授業の進め方・教え方の工夫をし、さらに、学生に満足してもらえる授業にしたいと思う。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか？ (回答 19 件)

授業中に出席を兼ねた演習を行っており、レポートなどを出していないのもあり、授業時間外の予習復習の時間が少なくなっていると思われる。予習復習が必要になるような授業方法の検討をしたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

ほぼ予定通りの授業ができていますが、若干、前半が長くなり後半の説明が少なかったと反省している、このような点が満足度や理解度を少し下げているように思う。ただ、教科書や講義資料を配布し、主体的に勉強できるようにしている。いろいろなことに興味を持って、自ら学ぶ習慣を身につけて欲しいと思う。

3. その他のコメントや連絡事項

計算機の基礎となる内容なので、できるだけ分かりやすく、例題や演習問題を使って説明するように心がけているが、もう少し内容を整理したいと思う。また、学生が計算機についてさらに興味を持って、自ら学ぶような工夫をもっと考えたい。

作成(者): 眞鍋佳嗣

授業科目名	: プログラムの設計と実現 I
担当教員	: 堀内 靖雄
年次・開講時限	: 2 年前期木曜 2 限
授業コード	: T1T006001
授業アンケート	: 回答者数 2 人 / 受講者数 5 人 (回収率 40%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか？ (回答 2 件)

アンケート回答数は 1 件であったが、同時開講の情報画像学科科目と類似した回答結果であったため、そちらの回答をもって、本講義の回答としたい。アンケート結果は学科平均を上回り、学生の満足度は高かったと言える。自由記述欄からは演習の難易度が適切であったという意見もあったが、簡単すぎて、ほとんど役に立たないという意見もいくつか寄せられた。ほとんどの学生が授業時間内に終わられるように配慮した演習課題であるが、学生の実力向上のことも考慮し、難易度については来年度の検討課題としたい。ただし、高度な演習は「プログラム演習」に委ねることとなる。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか？ (回答 2 件)

アンケート回答数は 2 件であったが、同時開講の情報画像学科科目と類似した回答結果であったため、そちらの回答をもって、本講義の回答としたい。アンケート結果は学科平均を上回り、理解度は高かったと言える。ただし、C 言語の学習としては入門～初中級レベルにとどまっており、高学年になって、もう少し高度な技術レベルまで学べるようなカリキュラム編成を今後、検討していきたいと考えている。

Q5. 板書，OHP，スライドなどは、見やすかったですか？ (回答 2 件)

アンケート回答数は 2 件であり、どちらからも良い評価を受けていたが、同時開講の情報画像学科科目での意見を尊重し、そちらの回答をもって、本講義の回答としたい。情報画像学科のアンケート結果は学科平均を下回る結果となった。自由記述より、スライドの文字が小さくて、読みにくかったようである。スライドの改善を検討したい。また、講義中は話に集中してもらうためにモニタの電源を切ってもらっているが、自分のモニタで講義資料を確認しながら受講したいという意見もあったため、良い解決策を検討したい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

講義時間内で理解できるような内容としており、アンケート結果の理解度も高かったが、3. のコメントで示すように、テストの成績が芳しくない学生もいた。演習が簡単だったこともあり、不十分な理解のまま、講義を終えてしまった可能性が考えられる。プログラミングが苦手な学生の理解度のベースアップの方法を検討したい。

3. その他のコメントや連絡事項

受講者は 4 名であったが、期末テストの内容を見ると、1 名が 70～79 点で、残り 3 名が 69 点以下であった。情報画像学科の学生に比べ、全体的に成績は芳しくない結果となった。今後もプログラミングが必要となる学生諸君は自分で復習や演習をして、実力を身につけて欲しい。

作成 (者): 堀内靖雄

授業科目名	: 情報理論 (情報画像)
担当教員	: 須鎗 弘樹
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 3 限
授業コード	: T1T022001
授業アンケート	: 回答者数 12 人 / 受講者数 22 人 (回収率 55%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 10 件)

この講義の受講生は、情報画像学科と画像科学科の学生である。この理解度については、学科平均の 3.78 より高い 3.9 であった。この傾向は、情報画像学科の学生と同じである。ただし、画像科学科の学生の回答数が 10 件と少ない。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 10 件)

この理解度については、学科平均の 4.31 より低い 4.1 であった。この傾向は、情報画像学科の学生と全く反対である (情報画像学科では、学科平均 4.33 に対して 4.53)。情報画像学科の学生の回答数は 45 件に対して、画像科学科の学生の回答数が 10 件と少なく、理解度が低かった理由を知りたい。自由記述欄には、理解度・満足度については、良かったことがわずかに書いているのみであった。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

現状のスタイルを踏襲しながら、レポートなどの予習復習の機会と質問できる機会をさらに増やすような工夫をしていきたい。

3. その他のコメントや連絡事項

宿題・レポートなど、受講生からのフィードバックの機会を増やすように努めたい。

作成 (者): 須鎗弘樹

授業科目名	: ヒューマンインタフェース
担当教員	: 黒岩 眞吾
年次・開講時限	: 3 年前期火曜 2 限
授業コード	: T1T026001
授業アンケート	: 回答者数 6 人 / 受講者数 13 人 (回収率 46%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 6 件)

5 点満点で平均 4.8 点と非常に高い結果であった。

学生が自らテーマを探し、調査したうえで、その改良点を考案する、そして、それを発表し他の学生がコメントをするという授業スタイルが高い評価の理由であると考えられる。

(何よりも、学生の発表が面白く為になる)

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 6 件)

平均 4.17 と合格点と考えられる。講義で身に着けた内容を、自ら選んだテーマで実践することで、理解が深まっていると考えられる。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 6 件)

平均 4.17 と、かなり高い。ただし、質問は講師に対して行われるのではなく、他の学生の発表に対し行われているものである。発表し、互いに質問し合うという学習は、大学生にとって非常に重要であると考えられる。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

身近なモノを改めて見つめ直すことを通じて、ヒューマンインタフェースに関する知識だけでなく、工学者としてのモノの見方が身につけていることがレポートや発表から読み取ることができました。

3. その他のコメントや連絡事項

学生さんの発表は大変興味深い内容で、教員としても気づかされることが多く、講師の私にとっても非常に楽しく、また学ぶことの多い授業です。学生さんからも楽しかったですというコメントを頂き嬉しい限りです (ただし、レポートは大変なので、受講するか否かはよく考え決めてください)。

作成 (者): 黒岩眞吾

授業科目名	: コンピュータグラフィックス
担当教員	: 津村 徳道
年次・開講時限	: 3 年前期木曜 4 限
授業コード	: T1T027001
授業アンケート	: 回答者数 7 人 / 受講者数 14 人 (回収率 50%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 7 件)

高く評価いただき有難うございます。マイクを使わず頑張っています。

Q6. Q5 の評価が「はい」でない場合, その原因に該当するもの全て選択して下さい。 (回答 2 件)

黒板の文字が読みにくいという回答が, 2 名ありました。できるだけ読みやすいように努めてまいります。

Q16. 全体を通して, この授業に満足しましたか? (回答 7 件)

高い評価をいただきまして有難うございます。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

画像科学科にとって演習のハードルが高すぎるとのことですが, すいません。OpenGL の初歩に費やす時間があまりなく, 現状で大変かと思いますが, がんばってください。

3. その他のコメントや連絡事項

作成 (者): 津村徳道

授業科目名	: プログラム演習
担当教員	: 森 康久仁
年次・開講時限	: 2 年前期金曜 3 限
授業コード	: T1T081001
授業アンケート	: 回答者数 2 人 / 受講者数 4 人 (回収率 50%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q17. TA (ティーチングアシスタント) がいた場合、この演習・実験・実習科目の理解に役立つように人数が確保されてい了吗か? (回答 2 件)

2 コマ開講の両方のアンケート結果を見ても、「いいえ」「あまりそういない」と回答した学生は 0 であった。計算機を用いた演習であり、一人で 40 人以上の学生を対応することが難しく、TA 2 名の確保が有効に働いていると考えられる。

Q19. 演習は対応する講義の進捗と適切に連動してましたか? (回答 2 件)

本演習は「プログラムの設計と実現 I」と連動して演習を行えるように、課題を作成している。2 コマ両方のアンケートの結果でもほとんどの学生が「はい」または「ややそういえる」と回答している (「どちらともいえない」が 2 人、「あまりそういない」が 1 人)。今後も対応講義との連動を考えながら課題設定に試みたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

演習内でとった個別のアンケートの結果をみると、多くの学生が「課題の量が多く、難しい物が多かったが、ためになった」と感じているようだ。本アンケートでも多くの結果がそれを物語っていると思う。ただし、中には対応講義である「プログラムの設計と実現 I」と難易度に差がありすぎるとの意見も散見され、来年以降の課題としたい。

3. その他のコメントや連絡事項

プログラム言語の習得は「習うより慣れる」という側面が大きいので、継続してプログラムをする時間をとってもらいたいと思います。また、自分が疑問に思ったことは実際に試してみることが重要だと思います。

作成 (者): 森康久仁